

〔目的〕

ジヤージーの特性を全かした衣服の製作はどうあるべきかを検討する目的で、今回はジヤージーを表地とし、布目方向と芯地を変えて、スタンドカラーを作製し、材料の物性との相関性を見出す。

〔方法〕

ウール100%のジヤージーを尺で、よこ、45バイヤスに裁断し、芯地として、ジヤージー芯地、接着芯地、パンヒースを選び、文化式をもとにして、立体裁断によって最適型と考えられる型にして、スタンドカラーを作製した。このカラーの投影図を作り、製図にもとづくカラーの曲線と出来上り巾子みとの偏差を測定し、偏差合計値が大きい程、製図からのかたよりの大きいカラーとみ出す。これらのカラーと同じ構成の試料で伸長率と剛軟度を測定した。伸長率の測定荷重は、縫製時の布送り力に相当すると考えられる200gとした。偏差合計値と伸長率及び剛軟度の関係を検討した。

〔結果〕

製図曲線からのかたよりの程度を示す偏差合計値と伸長率とは、ジヤージー芯地、接着芯地においては相関が見られ、伸長率が大きい程、偏差合計値が大であり、パンヒース芯地では、相関が見られなかった。偏差合計値と剛軟度との相関はいずれの芯地でもみられなかった。